へ13
1148

紀律會

へ13
1148

へ13

帝國圖書館藏
門へ13
號1148
明治九年九月廿日購求

序

蘭説起承轉合ふ。持を
強の主体なりと。予書樓の
世界に強て。此を言有
を思ふ。好妓侠客を抵んと
するよ。食とこの好とを何とも

虫。惚〻として心を起句ハ互ニ対偶仇惚〻。懐の内を懸心ら。只〻俳句なり。其附合の縣恋の。口吉の上乃断操ハ。頼倒の詩句ハ。又配偶の合句ハ。各庶ま

淫事を押。淫事のなかにハ挿落し。拵〻めしかハ中起る。是已起て謂べし。雙の枕乃尉句ハ。教文句の熟字有。後合の操ハ。語言絶句の既に死寂。

をり。候鈴音ハ娼妓も。
理を解せる七律。
いろ女男乃戯を。克せんとの
為なるべし。京平仄とり支有。
○白圈の印ハ弼巳し。○黒圈
ハ二字乃誤なり。●不同下

こん連。如乃邪体乃句
あり。おもも一座の連句ハ
初盛唐の陶風晩唐の
俳諧山宗朝乃悪弊に徒
まとゝ谷底に埋て深を
求ゆを毛のみ。俳諧行ハ詩

を作るよりこのかた。その言葉
をもて標題を命ずる。故に
書生の手ぶり貴人なり。希ハ
深乃夫通先生也。宜く
自制を施紀綜へ茲案玉成
孟春吉旦

十偏舍一九題

紀承轉合

婉曲歌　集義和書

百花爛案上文獻輯紙紈妓女
風流恒如友誘畫圖也

一九画

平仄

起 ●●○○●●○○●●○○●●○○ 平仄

承 ●●○○●●○○●●○○●●○○ 平仄

兼 ●●●●○○○○●●●●○○○○ 偏

轉 ●●●●○○○○●●●●○○○○

合 ●●●●○○○○●●●●○○○○ 偏

ヲ買ヲ平起ト云ヲ揚テアソブヲ
仄ヲゴリト云偏ハ共宵ニ一度夜明ニ
一度合テ二ト呂ニテ押ナリ

起

杜子美ら春江のるがめよりもなぐれの里の
花ざかりの月うつりのもる伝ぐれ　賓

承

李太白が汎の一斗ハ数百千の酔ひ
くるのあそびい呑こ汝の悪しぐれ　人

転

朱天が白帝の宮とけりる雪のくぐの
いろーーらけてれよこあひの大ま　吏

合

揚灘が紅のらけたーーとよりはるのつきまを
くぐへのいきぢ客ハひーーるよふさうの直

起承転合

十偏舎一九賊

○起句

揚柳花樹の下ま拾んで。まへ猶意乃
涙ぬ。あること去ぐ。ふ色男の己恋ぐ
袋と持てあるこ。ふ。西ま楼の川の街
を中の町の花ざかりまハ両引法ぬも北へ
去ア。長角が尻あけぐるも居続ーーえ
ん坊ぞせん。花と春ま様ーーー拾ふ。

のよ東つ花あ〜てあぶさろてゐ忠度も
花とあるドの早〜紙屋大弓の鼻やるく。
娼妓の花い青毛不飾つくりかし。若の
この花とのくでけべ兎そそるときつて呵
らる。ひこ拍い若と似よ鼻とひこつ色。ぐい
きやい彩迷とるんでそるを家。おい〜ん
若の鼻色とよんでい。あるひい鼻のさ花よ
あ〜らい。あるひい鼻色名とあげてのてなと。

狐〜鼻の若。牡丹ぐ〜きの抜ようひ。
払拭だるの若。あつくるかておしとたく。鼻
のひ〜やげ〜似さ山も。今の威光よたるを
るし。鼻きドのくとうりのも。色と地よつ
りて傍今を彩るいづれ花の名ごろあて。
さうひさ〜れよ〜系の。泥生六雑ホ鼻
い〜く。抜と屋ヤ火よりごろ。筆屋が
ち〜るのり花ござよ。たるこうぐとうを〜

ゝるハ後ふられの上形

夜良ハ　五十余のしゝだいづやなーえぐの小そで。あいのたちこの弟。ろうやゝんのだてろう中ぐゝいのくがふ。ぢでろうろゝて大男しくゝ入えぐ。こ入まで。めくきらゝゝやとこのこそのちも

仁ゝ下　ゆたたろうのひくるりとしるむすこうぶ。ゆきつむぎの小そて。ろうるこの弟。

ゝれもたゝとゝゝゝろ小笑。いゝろてかゝぞゝ　きゆう。ぐくゆそ女のおりいつていろふゝとゝる

やきゆう　仁ゝこうひとつのゝわく　仁ゝ下　ヨゝゝゝゝゝ

大きゆよいきゝゝ　弟ゝ廿　あるゝハかつゝ

あぐりまちん孫　夜　あれとおるぐゝこぐ

ぢゝゝ　おきのつろゝ　仁　ろんるあきゆうさうん。

きん汽をるさ川さようよ。ようけさまゝゝは

さがゆつぽゝあぐりまそ孫　夜　イヤそれがゆ。

大ヨゝひるゝよ去ん　子　子湯が病ゝ乳の付。

なよぐ　夜ぐ　ひんゝ　夜ぐ　おろして。場の内

さ夜へゆゝゝゆゝ。ゝ生てゝゝさぐ死かゝ

もとゝりまをゆゆゝ。ゝゝゝも粹ぐ病ゝ乳ゆ後

いゝをよゝよゝ。孫ゝ　ぐ。病ゝ乳へこち

まちよくるんさぐ。サア呑こてるうわく
とおめいるセベそでうんぶべてんさところぐ。
さうづれとぶゆもこゆまそやくといるさま
でゆとさくまたやくといふこさいいるんさ
うくそこで面さくべるまとうゆやいつと
おりりて今ごやア拭口この吸りのうん
のうこいゆうとゆきそるんのこさア逆ぺお拭を
ゆさうるとたんうれのやくさいふんぐ。

図おこてさうるとさくおうれるさるのを。
おいくんさちもおやくさんゆやアうんたちち
さぺれよおばさんでおさうづれんどふ
いくやセう 廿五 おりひぎーさ 図 おめ
ぎーるくおいくぎろふセ 図 イエあるさ
トにくさそぐ 図 コリヤあげふ 図 おやくさんー
ふれのるうくさくーるのとおくくーる
さるりんごやアぐろやセん 図 ぐふぐも

ヨロ〳〵ものあやアおちをとられる。【安房】モシ
おゆるさんるさうゆをそるのおさえさんへどの
あらごアさうくらつて大さんびさ【夜】そん
るるらおらうが。尾尾とあちやアげでよ
ようろうに仁ようぢろ〳〵のうへどのざ
【ぶん】ヤヤかうしのの人トおちるそうさくまるを
【番や男】長今度変さうあ出でにざり
ますそおやぎうねさんへ出ぞ祝えでどざる

そうで今ようかるん
ゆうそ【ばうまうとう】【ぶやきゆうがれこう】【ぶやきあやつてかに】【ぶれ方むるオ】【扶】出ろうく。
ようそうそうやアに仁ようとまるるさうんざ【白】さ
ゑんぶごうんてアきいくゆーさぶ【ぶ】さる
ようぶも孫ようさ。今ようなんさそのりてやく
アやせう【ぶやうさ】【ぶうまるとけ】ーまぎる。
むのおあいさうあ〳〵やてだんきそうよるる
ぞく【ぶさ】ひく申ようまさるぶうぞく

るげがうとるれしこるへのうえやゝやどごふろる
まゝのちくもさらへきこまあゝ家まの
とに家よつりしさくあごと 唐松 やるう 夜毎いさん
ようくおさなれしさラヤ仁こさんうへおひさきう
おざういを 夏 おいちんとちゝくとさだんそうさ
りんよおやぎねさんへどゝふそござりまを 蓮形
りうそおあんだへがうふいゝうておようてだうり
おいでるんを出れさんおとがけをそふおつ

せへしるたうまくきを まくぎ四 ア孫おやへさんよおや
ぎねさんがそよあうせをとよひよくきて
おうんるれさおあいがうおざういを私
もあんだへがうふおざういをがおやふう
やまうふまうう。おまちゆていういをとさ
 夜 はしうゝ。お茶でもあがれ。てうぎをやろる
そふご 男 ゝ ゝ 阿 さをんであ兵ゆくる
のるれつゝきうくきを しされ行りく 大門のうを

ゆりとしるやうなやうづれ・やさしくしてちんぢゅちゅ 丙ヱ コウ 吉さん。さうの最
ようりゃあのとーとうけているぞいーんとそる。
あれぐりんとうのいきさ安ぐ 固いっく。アノ又
ちんぢゅうもあぐぜ 丙 ちゃらぶろのあさなア
なんぐ。おさまりのをぞ。ぞろ少くしいそふ
るあさまぐ 固 それうりゃア。おのだもで 廃 ちゃ
とういてい。ぐいとんさわ。多て吉ようく 仏 は
てるぜ 丙 アヌうむているゆうぐ あーえるぐ

なんのことア 極 ぐ 恒 切 よゆべんと吉ろけ
ちんぢとといえるので。ふれるくさうーの 釈 ぢ
仁ぐ 皆 ふしろーおさまとこーを 丙 ちゃ ちんぢゅうのれとや
丙 ちゃ ちんぢゅうのれとやこ 丙 ちゃ ちんぢゅうのれとやこ
丙 ちゃ ちんぢゅうのれとやこ
丙 ちゃ ちんぢゅうのれとやこ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

仁三さんザアおいでなんし

俳者曰。この紅葉子ぞえとう嵐そこべ

とくた。おつうさんは又。嵐とる掛乳を

ろくさし。大掛コヽモて。岩とうくるゑ

ゑ。此ふうと。おるゝ焼のよゝ掛

ろさべ。ちゝろくひぐさろう。ぬぐさろう。ぬ

掛の月のろうやを見へ。俳諧のうゑき

よしてぶし掛者しよ。むさべえはの

飲つ見とろべし。兎角猫ハ難ゑへ

さとと。池臥ぐうゝねゝ

○業句

うゝまろがざゝさよゑあまろ大むちよゑ見おとそ。ひ

ぢろんのうゝとそ者人ぞうろうまゝドゑ仁ろう

ゝゝぐうとびれひぢとまげてまろゝとすゝる。この

しゝうるぞやとろゝ月のうゝはがろうんむろとゝとろうて

庵松 すゝ そんなるよゝ

ゝるゞゼ蕎見でもゝて。仁ゝさんゑあげゝん

せんへ 野方家 仁ゝさんいとゝくゝろいゝさ

[丙] ちょうちん[提灯]でもうけてあげやる
こどもの。松とりにてきや トまつをとりにてきやとうとうとて
あそびに行こうとまちかねる 皆ちんぢゃ[珍]ちんぢゃけり [仁] コリヤア ありがてえ[有難え] [丙] 今あ
やぎねさんとおわるうつぞ[こよな]ぞ[ぜ]ぞ[ぜ]ぞ[ぜ]
[ひ]ぢおりくさんとおひなんせんなやア[ア]るる
[ア]くてがおざりいをてさのりちくとまる
ておいでなん[まち] [仁] アイ トらんもいちばんぢゃ[ちゃ]ぞうい[いる]なる [丙]
[ア]ア[ア]ア[ア]ア

ぞやはこーりゃされぞいぎんくらぴーやころ
三寸同ごとー　めるぷいこーぐさんまいら
ぶはいられぶくん　左　おぶまれなんまるる
流　いろくはぞもぬらぐせるぷらよひと
されさ。まめくぐりるみるぶぜ　左　どこる
そんるこそこそきのしぷぞちゃいしてお
おるんー　流　ヒャアおつくやぷんよ夏と
びのうさかりひぷらう　ゆくおぷらいう

コリヤア　夜ぐのむしんさヤアまざえらいぜ
左　ごーやうでおざういをぞきんーておくん
なれぷそーて　夜ぐのむしんさアぞんるこそア
うきヤアいくーいせん　流　そんでもえ弱く。
りんるあるもものろこおのそぷくうりく
ぞんどりくーきこくる　左　ヤアうんめーて
おくんるんー　流　そのつぞいるんぞやはる
くーヒねりのまゆくぷぶびんとおぷ　也

ちゃ。ちろうをおきゑ〳〵とゝへるゴロ〳〵
[四]ハテはみさんれこれむりのコムベ。ちびん〳〵
おぢ〳〵ゆさるべくゆ。[左]ヲヤ〳〵だら〳〵しい
のゑ。ちろいやうとうさんざよヨトあんどうのゲケのゴロ〳〵
[四]そそでおきゑ。ゴろうるんをう〳〵。ゆいそ
ゑいろんがゑきゑめくゞいをゐる[四]ゴロ〳〵まと
のゑ〳〵。ちろうこまとゐちがやっ。ちろ〳〵。
うにゑめくゐ〳〵ゴロ〳〵。ものゑくトゴロ〳〵ゴロ〳〵ゴロ

ヲヤあのゴロ。ちろ〳〵のまれてろゐゑ。
牛黒さんよ。さだとちろ〳〵。ゆ〳〵ゴきそ
ろんゐ[四]ゴロ〳〵ゴロ〳〵ゴロ〳〵

この きとうを きとう家人 おりゃ。おいらんも
さぞ ぼくとぼくとぼくと

人。孫左衛門。系図。合巻。市中。紙下げ
物。も出来。孫左衛門。百姓
中。雑。彼。雑。代。貧。
さて入合巻。奇。
とこの。宮。中。図。孫左衛門を
孫八。孫左衛門。
おぶんを。図。

りて。孫八。ふるぞのの。流。コリヤア。ふるどく
きさろ。ふろ。ふぐ。ぬ。おり。の。名。でき。中。さろ
図。そこでおもとる。流。きこ。ぞ。ふる。この
家人。ぐ。田。人。ゆ。る。紙。紙。おり。の。と。よと
を。ぬ。ぬ。ぬ

のよ。流おりちいく。射ようぞ。や拙も百
へ弱。今ごろ。二百余。紅ちゃ。そそ代物を
てやは。母さま。へ。ぢゃ。本孫。百姓ちゃされや。
さるべくは。ぢ。百ぢんぐ。ぐんぐ。ぐんぐ。ぐ

見ういくさんでよう　況それでも。あわくるまを
とぶしとおりゝいろうくさん　き　とゝゆうでおざう
いまそろちくおうくるれしトゆうとひろうろうまだ
況いろゝなだけのものがあるものでゞ附よう
お眞さんがどくしゝ。ぐゝきさまのゝ
ちゝろゝゝさしてうくんなせ。コリヤアもだ
といしゆゝゝゆアをいとゝるトゝあがゝきゝろ
わゝそのきのゝとゝろゝろゝろ　況ゆゝ
ゝゝゝ松さんよおいうんて

おつせくまで。アノヨ。化こさんがお出るんして。
おヤこさまでおざうくまを。今よおやよう
ヤこいせこうゝ。おこさのんやいをヨ　き　あや
きねさんよ。化こさんゝ変よ。おようておいで
なんをうゝ。ゝるゝゝざをおあんどるんをる
とよくそよかてくゝやゝ。ゝをれやくよ　況
そよやゝいゝゆうゝトゝ話　況　お眞さんゝどよ
きるんをおゝ　き　のよひけゝでおざんせう。

おやくさんさちや。ゆうべ夜ごとしつて。お体
なんしゝト四ちんでゝとゝろとこゝろ 仁 コリヤアどう
せいよ孫やゝ。おいゝんまごゝく 京 まごゝ
おせなんせんようる 仁 そのつァ法まつわく
京 今あやぎねさんのかゝつぷそふあせて
やうゝゝぶやくさんつぷりちんと。まつて
ねておこんなんしゝさトふくさとつけてゝゝどゝ
いと ちよひへあやぎねさんとでゝぶおあんむく

ゝゝもつせゝゝさどゝでふおやくさんが。
おいでなんゝさゝのゝそおざんせう孫 仁
ナアニトいつてさうよぎやるのそゝじと
そうゝ付ちんぢゝそゝゝゝづけ いと みどゝや。
あよいゝて孫やよ。コリヤアおさゝ去うおざう
いせう。今よおせなんさとゝさトいつてあんどうめ大とゝゝ
さて大なもも大とゝれゝあてゝびゝ
ぶゝぶゝとひきまりゝそ出てゆく

○轉句

京 こぢこのんでゝもきせるよう。閉ぐごとゝゝね

うさをとめう　仁ぞんひとうひだちのさいとうきるして
なるとうまろざーきくろうがくとんまハ
[丙] 仁ぞさんおまちくでおぎろいーあう孫
ト仁ぞくーくるーんでぞ　ぞいやさまくるういさコリヤア
火ぞもものそおぐつくだひ
おとぞくよまろみでおざんをぞちくさんの
まろのとぞさくぞまろのさァとんざちぞく
でおぎろいきそよ [仁] おぜくぞ [丙] おぜぢやアお
ざんせんおとこの　ーこるころさわくイヤさんのとはであ
りーぞとぞるァ風ぞちひそちんせうぞ　ーくく

きそおさをしちんく [仁] 秋ぞうさんる柄
られよよ [丙] よよさくるぞとくおぞんんて
もおるぞ孫でおざんを風でもおひろやや
ちやァ。あやぎねさんくぞ　ぞみぞおざんさん
[仁] ちんるるーいるそもようろふろ孫トもぞ　きうきぞ
いよしおるぞ　ぞ　ぞ
のちくおるぞ　ぞ　ぞ
[仁] アイートとそふよ [丙] ものとろちくおよんうせ
よぞくきろそおぞるんをぞろくそとんな

こゝをくおのれなんぢのあたにふるゝほどをとれ　あや結
さんい仕合なめんざねね　白　なぜぞ〳〵　庵　おやく
さんのようなおとこぶぶれられてゐるなんを
う〳〵　白　ちいさいぐがようふるのものぶんとそれを
とつて仕合なのの　庵　おやくさんのようなる
い男がめつてゆるぶおざんせんあるく結さんい
さぞうれしがつてゆうついをめ〳〵ふしい
のふとたるめうくはとでとおるひぶさ〳〵と　白　あ〳〵ア
むはいとさ〳〵ふるだにふるもむ

又ぶ　真さんがう〳〵ゆるしいおやくのようなる
くはようはいがう〳〵れるう〳〵　庵　ヲヤおるぶりゆん
をぶんはいのくひきよりとおやぎねさんい。
どのうくぶいくおりつておぶんす　白
これをどさとそひきろそつる　庵　りくおつるゆ
しいりんぶこおりひゆんせうぶかんゆ〳〵そ
おうんゆんしぶちどゆそおぶれさとれう〳〵。
コもこうゆァおめくさんよりゆくいつそね。

どよもいくゆもいいれいせん。をいやあじて
おうんなんとうとく扨と 仁 ソリャァ ろんとうふく
どよもうそらこいてよ 南 若長さんや。あら狂
さんのくよめくもろうぶどこんなむりなことと
ヤいうとこよくくのことぶこおりておこうん
なんしこうヌヤいいこうこうおめくさんハ
あやぎねさんまろれきつておぶなんをう。
とそもおよびねここァおきこわてい

ありいまこぶりもふびんこおりひなん
きとるこせあてねーのいりとこぶこおりて。
ろるこぶこどんをとてこおうんをんを 仁 お
めくもいりとさァむーのいこおいこァおふくろ
ぶこおりつて大ぶるまるこよ 南 ゃりこと
そよよ 仁 姉さるよしておろう 南 そんなこ
ねーやァころちぶ中でおぶんをう。姉の
いまとおきこなんせんと。大きなめまあ

つよいさとゆよ 仁 アイく 老 ドレ弟とちつと
いぢわるてはうい〜いやう トちぐ〜つのてよぐ
ちろぢつとうぐる
作者曰 ヱて ちるぐ〜えぐりろるいめくまーい

○合句

あやぎねへあるよてゆ〜ちよとひえ内〜ちつより
こりるおろ〜ろはぐ〜きさりしとよろこびちぐう
ふろまらつけてざーきさはとことゝせをよけて
きのびあらんとあぶづらのかわれあちそうるゆくろう
番新衣里 そでぢゆゃァ。ごれくゆとうれてきや。フレ
ちちろ〜こぐれいを。きとうけやよ 老 アイやろんと
ちろそを

はけ有とて〜きのあとうびるぢの老 食長 ちろ毒さん。さうえ
きりのときさるげーぢうぢ 食 さろきのさァなんぐ 食 アッヨひよひ
のりのくへ 食 さろきのつをりんでおさァ 食 ヨャるん
と。コウぶろうのつをりんでおさァ 食 ヨャるん
ぐるはさァ 食 ソレよいくと。ゆとうれいを。
ひよいとはむろぐひとろんで。ゆ。あとオ又
りよひとろはもくめるぐ人形でおさァる 食
うゃくゆとろよ 食 アヤ そやとョ おろんなんー
食 やうすーいぐておゆんなんーる 食 ごれろよ

トヽさまごこぶんの川　すがわら
ぶーふうぶーて　うらうらのぶんさるぶ大
ぶんよ。ちゆちゆと。めさるまいらへのといよ。
おどうとおどうてアるせや　衣　うらうとよこぶりて
志まんなんしる　丑　とりていきや　酉　うやく
てのりのぶそれいてこれぶやアひようとコウ
なうんせんよ　トきさまあいて　よとときよくアこるれ。
さいんなよ　丑　エてそうぶいさぶよきろくあつ
ちぶりてそれなんし　酉　おんいきなろ梅さん

ぶよヲ　トぶうくこぶしと　亥　ゆうちおして
いきんしさ　丑　うやくおゆしかいてあいいさて。
りりてく紙へのんそしてなんぶうかてくりのぶ
はくんでありいさて　衣　あけなんさるぶちぶ
あうういさて　丑　そんぶんぶもなんぶうちぶくいさを
トうんぶあくあうをきうをきまのうまの
あけてえんぶうまのうまの　申　はううやく　衣　ぶうくしいまぶ
のんヲネを　はうらうトぶ　酉　ぶうくくうらうて志ぶど
　　ケてたうちうん　松山　ぶうくくうらうて志ぶど　しきあとをのぶく
酉　おいくんなんぶんさて　松　と志ぶさんぶ弟い

なんーてぃつをかぐけなんまちート弦くらう
ドーとぎきく 志京 まよひるのく。わらしゃアイ チャン チャ
チャン スッチャン チャン 松 ちごどもひきちートびの中
ぺたちう 若青 そつ抜さん。そそよあアんぐぐう
ぬきとう 志京 そそ事ーとぐぐをわどんあいさ 若
ソッかおこの こでさごくゆそ孫 松 びきちびの中
本ゆどん。ぬ糸さんいどちくいきちる
図 今むうーさんのそんおろうなきんま

十七

十、こーいおさちるぬ
ちうアコて 志京 ずーひるのお山
ヤアイ 松 ちう又きかつんーこんる 若 ゃあのあ
人へさごくでさ。医ちどめぐ法ゆうさる
の。孫ちんちいきやアまあくー けんちう山
とおいどんいちうくうけくう
あちうこんい 兎 おいくんいう 亥 こてあやアまつ山
さんへいきろ事ー孫よ 兎 ごどざんさ 若
きま 抜ち回ざアロちうめく 兎 きち孫ごどよう
トつうとやく 松 コンナ 赤面 ごんぞんちくい

[illegible]の。おのの戸さんごぢろとこたへきるん
[illegible]。そよいろそんぐせんよごうそろくよ 若 ゑ
うとそうゆ[illegible] 松 あやぎぬさんこ
[illegible] 良 そもあいたこさんぐおぢなんくくぐ。あひ
[illegible]ん。今ぢおぢろんを 松 ろりあは
あいぐろう。あやぎぬさんぐ。ろそこぐれてぬ
[illegible]ん。ろけぐ。さぐぢおられちろざんせくぬ

[illegible]

良 ちろ妻さん。仁こさんとこたへ。おうれやてきて
おろんるん。 [illegible] 初妻 今そそおいいぐ。ちろ
のあらゆ仁こさんぐ。[illegible]
[illegible] 仁
[illegible]ん。 仁 おいくんは 良 今ふお
出なんと。さろきぐ。ちろさんのとこたへてい
しこぐ。おやくさんかよくおよろてお出なれろ
け。兵いさんいぐ。ぢもんとこたへ 仁 ろこ今う
きろきろこ 良 ろこたへ体なんしおいくんへ

今そこへ出てきたト夜さこへ出てきたト
まごくーてうけざそ。ぜ四あくぎ長八
ひつ性のちまざのだこつ花こるこ。白いこあくうしいなと
うこうくここまぎけ七八のつぎとの花こうちけんのようど
きるれこるねこ紀のまこそろくこ
ぎーきたこうまぎまふこんのこまこ。あや結よくすてお
こんなんこさおめくさんこあいここ。てくこふ
とがれここ者ア。おざんせん四あんだくがるいと
きいて。おいこも大きこあんでいこがどもこる
ひまがなんこさとこるこうなア。でくがやせる
きこうこそのこうこ左くがとんごちいさこるこ

ちゃだこうしいのこトきあくまめこれてきあくの
なんざこうりこぎおめくさんのこてこア。ここ。ここ
いせんこんなこまおりのこちゃア。いのちもつぎひ
きこあくこそここそこうこふすこいこここきね
里さんなんざアいくそきのどくがこそん
なこまおりひなんちゃア。ぎのこあるなりの
せんこうこ。なでもこんでこ。こきこしなんこ
いこんこあくせくきここいこかざんきこなこん

なるほどあのやうにおくんなさい
ちもそのとおりぐらい。さあ〳〵よくなりる
せんどよもあんだそなた〳〵孫へ呂る
でもそよいのでおくんなさいやア。それぐ
ようこざりいをこるとトとまうくに
そよさトリよせてなできさもう
なれてさるんざんまえ
さんぐりつそおとろなれて。爲松さんとぐり

三十

こうぺこうしてゐるなんをえる。それは仁
三さんとよんでこいといるなんをえれば。爲
虎さんのおろせへをゆやア。仁三さんがお出
なれちやアロロよおきろ〳〵。そろとそよ
ゆておいそられろ弁 ちゃどよなんしさ
のぐへ 仁 ぐせさのぐら 呂 を今作さえん
がそよおろせへぐ。どよでも仁三さんと
ゐぐまろさんが一ゆる孫てゐるれしさとなく

秋長さんがお出なんしたんぞう〳〵。そのて
でたら〳〵とおさちなんしたさ。ちゃ なぜ又
おやくさんへ行きまつさんとぷつちゃる孫て
いなんしたさ。仁 ナニちゃうと孫こうんでこざ
とていさのざいる。ちゃ うそとおつしやるんしたとは
たらちよるちよるとやうなんぞく。ちゃ ちろ柿さん
てもでーきらくまてらうとうん
ぞーさのざへ。ちゃ それも孫。で孫ていなん
まとてさア秋長さんざうて。たろもさち

なんさをやくざ。行き雲さんも仁こさんもまん
ぼじゃるよさ孫とといて孫ていなんしたさ
それざう〳〵秋長さんがおとりなんしたも
むりおさアおざんせスんなんでも仁こさんが
でぐぶふんがコるくるんしたう〳〵おう〳〵ん
さん〳〵ちをたとておあげなんしたアいろそ
いんがきれいをドレ又いろてらいろいせうト
ぱーとちやざうるきく〳〵
又そうくまりけざーてい ちゃ そんるるくおりへさんい

うゑまつさんと色(いろ)ゑでおざんさ孫 仁ナアニ
とんざ〻と 図 ちんこあきれもきいせんぢ
めへさんもあんまりでおざんさぐゑまろ
さんもぴごろ仏ゆきをくきるみもいせん
ろ〻。ユリヤアこのぶんぎやアをこいせんこへ 仁
さそんるこ。ひわくこさァ孫へこるゑ。扶桑さんの
めへもありどもてゑ変さんとそこいこと
ゑときるりんざ。へのくちゃあてるやア

ゑ〻孫へこ。ヨャゑこくこぐあるうんざ。孫
のこも孫へのこ。おめへこそこそけがむぐ
こうりんざろ〻。ニャきゲんとゑこそゑドレ
ゑこぐこゑめてあげよこ 図 ちはこ。ドレ
ぐこうたこゑ 仁 ゑるくきさめのこぞんな孫
付ゑこさァ孫へこゑ。ザアこちゃアむいてこん
ゑこ。ソレあんまりゑくろ〻。嘆(セキ)ぐでゃア塩(ちゃ)も
孫へ 図 おめへさんぐそこいこきゑ。ぐんしちゃア

きるせん人ゐろちゃ。さてゝれいをすんで
おざんまゝ。よくまとめること内儀へ
そくナりて。色をまつさんぐつてこでいかきい
せんゞ。ゐいさがちあまりて。ゆくさが百信と
ゆでおざんまをすのとおわくさんも。ふゝび
とんくちいでなんをゝゝ。できくせんよせて。
おやまうけつまゝ。ちくおりつておるれ。
仁 ゆのくくゝゝ。ゐいゝ。それゝもおわくがどんなよ

かりよゝ。ゐゝ。ゐゝ。ゐ

せなんをぞんよりのみてたてぐてつけて。
いつとうはしくなりつてぞ。ぞ〳〵トにたてがてぐ
ちてりしらぐくらいつれ。囲いてんとはるぞ。ぞんを
まてくてんのあとてうれ。
ちぐへぐつぐぞれぐてつぞとはてらつのる
ぞなはけの弱へひつのていちだるしぞ。
はんくてぞいめへまーいてくだいトぞてこてんを
囲ちおまちなんー囲なぜてちへぐトつてくれて
はてしたてるる囲たてつてちまぎれるぞんなる

神ロ

ちいつてのぐ。れるあてうれたてぐんゆん
しておてんるれ囲そよりるさちぞどれ
てんでゆおりへのてのてのぞて弱へてんるとてゃ
志弱へてうあんぐるさんる囲そんなてぐの
まてさんとぞちてぐものとおつせまて。
きていせんゆへ囲いはあへてう。中なてるぞ
ひへへはてんて弱へヨトちてんぐうをる
のけよよ囲あや アレヤおまちるれ トトてるつけて
てるる してうメつけ

おりく　さんとそ。おりくありひるん寄うが。
ヨろちやア。ヨろちやアのうれしいことア。お
ざんせん。これらおわくさんところうて寄ね
いそそらう。ひくどてお出なれ　ね　どもし、
とろもと　あさ　とろしてさへつぐさ　ね　ごてせ
えのつよの病人ぐ　ね　わんよ。わんざんの呉
いそもさろたろヨとれて寄まいしそらう
お医者さんぐよヲ　トぐろうよぐと
ひろうぐろ

紫檀の好しんぐう。おのれくぐの
をと忘れ己若衆の方と忘れ
て恋慕よゆう度忘度。色色男の
因果のはくだひ。惜られぬさえが寄ね。
ホウ　ヤレホ。乱遠あるようさられて呆然
ぬち　ふたご
喉の川柳ぐぶつはえあるく頻狐の上
曽月打て海　ぎ　ぬ　しんせ
ろう。唐松が仇　松のうへきだをよちち
のくる。客の鼻毛とよく抜しんとの後

へん　きわ　ゆう
篇ヲ出ス〳〵いろ〳〵何ぞ世よう
ちゃう〳〵めつらしく

起承轉合

後篇遊冶郎　十偏舍北
　　全一冊出来

日本之遏又粹　唐士之遊治郎也但
仍書攫曲又少年俠客行如是命矣

明治四辛未歴月下旬求ム

松洞古愚　拙筆

文淵堂三十七年一千八百　十五